



明石市立
文化博物館

文化博物館だより 第211号

2008年4月24日

みなさん、こんにちは。暦の上で、春の天気が安定してくるといふ「穀雨」が過ぎ、少しずつ穏やかな気候になってきましたね。

石山寺縁起絵

『石山寺の美』展の特別講演会が、13日(日)に行われました。今回の演題は、「石山寺縁起絵」。講師は、前・奈良国立博物館学芸課長で、この春より奈良博にほど近い東大寺の総合文化センター開設室室長に就任された梶谷亮治氏です。

石山寺の寺宝の中でも代表的な「石山寺縁起絵巻」。現在、当館ではその模本を展示しています(重要文化財の「石山寺縁起絵巻」は29日以降の展示)。講演会では、室町から江戸時代にわたって作られた七巻がひとつの絵巻物を成す根拠を解説。後半は、スライドを使って絵巻の内容の紹介もされました。参加者は、配られた資料を見たり、メモを取ったりしながら熱心に聞き入っていました。



講演会の様子

次回展の準備が進んでいます・・・

『石山寺の美』展も、会期後半に突入。29日(火)からは、いよいよ国宝・重要文化財が登場です。そんな中、学芸員たちは、次回展・次々回展などの準備に追われています。次回展は、『小倉健 作陶展』と、併設展として『兵庫の陶磁'08～三田焼展』を開催します。これまでの企画展より規模を拡大し、1階特別展示室・2階ギャラリーを使った展示になります。



作品の大きさを測っています。

開催までひと月を切ったので、担当学芸員は集荷や図録の準備におおわらわです。小倉健氏は、当館の郷土作家シリーズの記念すべき第1回を飾った作家です。開館の翌年の開催から16年。その間に広がった小倉氏の作品世界にどうぞご期待下さい。

あわせて、健氏の父・小倉千尋氏の作品もご覧下さい。当館の常設展示室に展示しています。



位置決め中・・・

路傍や住宅の庭先では、木々の緑や花の色が鮮やかさを増して、はっとします。みなさんのお家でも、何かお花は咲いているでしょうか？

文博の花壇は、こんな感じです

